

お 泉 水

2002年3月25日

□平成13年度全国図書館大会

平成13年度（第87回）全国図書館大会が平成13年10月24日から26日までの3日間、岐阜市において「2001年・岐阜・図書館の旅－IT時代の図書館像を考える－」というテーマで開催された。

第1日目は長良川国際会議場メインホールで開会式・全体会、第2日目は各分科会、第3日目は全体会・閉会式が行われた。

初日の全体会では、IT革命によるデジタル化、インターネット化の格段の進歩により、図書館の無用論が浮上してきている。そのなかで、今後図書館が生き残るためにどうすべきかを考えさせられる内容であった。

私が参加した2日目の分科会は、「21世紀の大学図書館の役割」というテーマで行われた。大学図書館の地域への貢献が叫ばれているなか、私が一番興味をもったのは、図書館蔵書の横断検索システムである。これは地域大学図書館・公共図書館等の蔵書をインターネットから横断して一括検索できるシステムであり、これが実現すれば、自宅にいながらにして見たい図書がどここの図書館に所蔵しているかを簡単に検索することができる（岐阜県では既に実現させている）。地域住民の生涯学習のニーズに応える図書館として近い将来には是非とも実現させたいシステムである。

（福井大学 水上 満雄）

□平成13年度東海北陸地区公共図書館司書等専門研修

11月6日～11月9日までの4日間、富山県立図書館において東海北陸地区公共図書館司書等専門研修が開催されました。参加者は135名、うち本県からは6名が参加しました。

私が参加したのは、3目の大串夏身昭和女子大学教授による「近年のレファレンスサービスの動向と技術」と、参納哲郎小杉町民図書館長の「図書館におけるボランティア活動」の講義及び小杉町民図書館の見学でした。

「近年のレファレンスサービスの動向と技術」の講義では、レファレンスサービスを取り巻く状況の変化、新しいサービスの展開、新しい技術及びこれからのレファレンスサービスについての内容でした。

「図書館におけるボランティア活動」の講義では、場所を小杉町民図書館に移し、公共図書館におけるボランティア活動の状況及び小杉町民図書館におけるボランティア活動の特徴、図書館のボランティア導入の留意点及び成果についてお聞きした後、小杉町民図書館の見学を行いました。ボランティアを受け入れるために、図書館側の負担も大きいが時代が求めている事であり、その成果はとても大きいとのことでした。

（金津町立図書館 河村 みゆき）

□平成13年度全国公共図書館研究集会

◇奉仕部門

平成13年10月18・19日、神戸市にて「21世紀をひらく図書館サービス」という主題のもと、図書館における資料提供を通じた生涯学習支援の事例発表及び研究協議が行われた。

「暮らしに生きる図書館を」「子どもと本を結びつける」という2つのテーマに沿って、ビジネス支援や児童サービス、学校図書館支援事業等が報告されたが、中でも「自立なきところに連携なし」という考え方のもと公共図書館が基盤となり学校図書館の自立を支援している小杉町（富山県）では、貸出カードの共通化やネットワークによる連携だけでなく館種を超えた司書同士の交流やレファレンス事例集の作成などを行っており、「子どもが1日の大部分を過ごす場所」であるからこそ学校図書館の充実が必要であり、そのためにも公立図書館との連携が必要なのだとの言葉どおり、子どもと本を結び付けることへの強い思いが感じられた。

これから資料提供を考えるには、公共図書館だけのサービスではなく館種を超えた繋がりが必要だということを再認識した集会だった。

（福井県立図書館 藤野 夏央里）

□平成13年度東海北陸地区公共図書館研究集会

「インターネット時代の相互協力」をテーマに、11月29・30日の両日、名古屋市で開催された。参加者は143名で、本県からは6名が参加した。

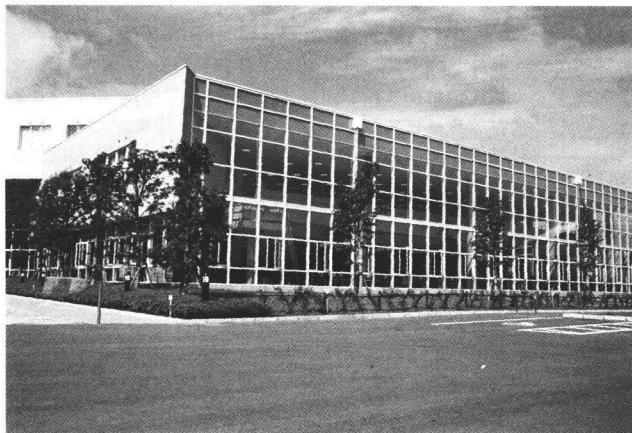
主として「石川県立図書館」、「愛知県立図書館」、「三重県名張市立図書館」の3館の事例発表をもとに、近年急速に普及したインターネット環境を背景とした公共図書館の今後の相互協力はどうあるべきかがテーマとなった。これからの相互貸借に必要不可欠な、国立国会図書館目録（OPAC版）を筆頭とする、各県の複数館目録の電子化といった技術的なことや、物流（相互貸借本の移動）、人的交流などについても、各県の相互協力体制についての取り組みや考え方について、現状や問題点、今後の課題について議論がなされた。

なお、基調講演は熊田淳美氏（中京大学教授）による「相互協力と公共図書館の未来像」であった。

（福井市立みどり図書館 三上 達也）

新築図書館紹介

新設 仁愛大学附属図書館



心理学科、コミュニケーション学科の2学科からなる人間学部を柱にした仁愛大学の附属図書館として平成13年4月9日に開館しました。

建築構造は鉄筋コンクリート・鉄骨造地上3階建で、

仁愛大学附属図書館

その1・2階部分が図書館です。延床面積は約2,000m²。蔵書収容量は146,000冊です。一般閲覧席は147席、検索コーナー32席、DVD・LD・ビデオ対応視聴覚コーナー26席、グループ学習室（2室）28席、教員閲覧室20席、書庫（2室）18席、その他6席の計277席あります。一般閲覧席及び検索コーナーには情報コンセントが設置され、学生は持参のノートパソコンで英語学習等ができる学内ネット及びインターネットを利用することができます。

図書46,000冊、雑誌200種、視聴覚資料1,200点でスタートましたが、学生のリクエストにできるだけ応じ、人気の高いDVDの購入、若者向けの雑誌等も受け入れています。秋には学生に書店で読みみたい本を選書してもらい大好評でした。大学図書館の使命として専門領域の資料の充実、オンライン等による情報提供と共に、本館では学生主体の活力ある図書館を目指しています。

（仁愛大学附属図書館 森川 輝美）

武生市立図書館をめぐる動き

武生市立図書館

武生市立図書館は、明治29年に開設された谷口文庫を前身とし、大正12年に町立図書館として開館しました。その後昭和41年に現在地に移転、昭和52年に新築し、現在にいたっている歴史ある図書館です。

その間、分館の建設や児童室の増設、一般開架室の改装などをして利用者へのサービス向上を図ってきましたが、近年の図書館を取り巻く環境の大きな変化に、次第に対応できなくなっていました。

このため、市民の間から図書館建設の声が上がり、平成12年7月に図書館調査研究懇話会が発足しました。この懇話会では、「生活に役立つ図書館」「アイデンティティを確認するための地域的・歴史的情報の拠点」「図書館がまちをつくる」を21世紀における望ましい武生市立図書館のあり方としてあげ、望ましい武生市立図書館を実現するための具体策としては、「新図書館準備室の設置」「図書館長の公募」「すぐに改善できることからやっていく」を提言しています。

そして本年1月にはこの提言を受け、新たに図書館建設準備委員会が発足しました。この委員会は、懇話会で

提言された規模・機能・設備等をさらに具体化することを目的とし、図書館本館建設を現実味の帯びた、目に見えるものにするものです。市町村合併などの大きな変化を前にしての厳しい状況ですが、図書館建設の第一歩を着実に踏み出しました。

これとは別に、仁愛大学附属図書館との間に「相互貸借協定」が本年1月に結ばれました。地域に開かれたキャンパス作りを目指す大学と、心理学や語学・コンピュータなど、大学が所蔵する専門書を利用したい市民の声に応えたものです。これにより、インターネット等にて所蔵を確認できた仁愛大学附属図書館の資料を、市立図書館を通じて借りることが可能になりました。また、附属図書館にて直接借りることを希望する場合にも、市立図書館の利用カードで借りることができます。（図書館間の連絡や通知は、文書・ファクシミリ・電子メールにて行います。）

武生市立図書館では、図書館建設と他館（施設）とのネットワーク推進が今後の重要施策となっています。

（武生市立図書館 花島 常善）

平成13年度日本図書館協会地方講習会

9月14日、愛知芸術文化センター愛知県図書館において「『望ましい基準』とこれからの公共図書館」をテーマに平成13年度日本図書館協会地方講習会が開催された。参加者は111名、県内からの参加者は8名でした。

内容は、平成13年度7月に文部科学大臣より告示された『公共図書館の設置および運営上の望ましい基準』に関する講義により進められた。

内容は、①昨今の図書館情勢、②国の地方分権、規制緩和の推進に伴う『望ましい基準』の変化（大綱化、彈力化され、数値基準がなくなり地方の裁量部分が増加しているなど）、③電子メディア資料に関するサービスへの課題問題、④『図書館への自己評価システムを含む経営センスの導入』と『公共性』の両立問題、⑤著作権問題など、ダイナミックに変わりつつある社会情勢の中での広範な問題について、精力的に講義がなされた。

最後に、講師から、現場の図書館側からももっと国の方へ要望、提案の声をあげて働きかける姿勢を持ち、よりよい図書館行政を目指すべきとの示唆があった。

（坂井町立図書館 長谷川 春美）

平成13年度福井地区大学図書館協議会夏季研修会

- 開催日 平成13年8月28日(火)10時～16時
- 見学先 勝山市立図書館・平泉寺・南谷三千六百坊跡
・福井県立恐竜博物館
- 参加者 福井地区大学図書館協議会加盟館（福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・仁愛女子短期大学・敦賀短期大学・福井医科大学）の館員31名

■見学内容

勝山市立図書館長の平泉氏に、平泉寺・南谷三千六百坊跡について説明を受けた。県内に住んでいたが、実際に一つ一つの史跡を訪ねながら細かな話を伺っていると郷土の昔が偲ばれて、感慨深いものを感じずにはいられなかった。

統いて、卵形で銀色に光り輝く福井県立恐竜博物館を訪れた。折しも開館1周年記念特別展「ロイヤル・ティレル古生物学博物館の恐竜たち」が開催されており、博物館職員の方から説明を受けた後、参加者は古代ロマンが漂う館内を自由に散策し、貴重な標本や映像などに見入っていた。

今回の夏季研修会で、日頃図書館業務に追われている我々にとって、現実を離れ、前世を偲ぶことができたことを感謝したい。

（福井医科大学 山本 正和）

福井県学校図書館協議会この一年

- 5月17日 第1回県学校図書館協議会役員会
- 5月29日 全国学校図書館協議会総会
- 4月～9月 第27回県小学生読書感想文コンクール（福井新聞社主催）に参加
- 6月8日 第2回県学校図書館協議会役員会
- 第1回県学校図書館協議会理事会
- 6月～10月 第47回青少年読書感想文コンクール（全国SLA・毎日新聞社主催）に参加
- 7月10日 第3回県学校図書館協議会役員会
- 8月2日～3日 第37回近畿学校図書館研究大会（大阪大会）
(県内より45名参加)於 大阪市
- 8月10日～11日 第12回学校図書館夏期セミナー
(県内より6名参加)於 横浜市
- 9月～1月 第13回読書感想画コンクール
(全国SLA・毎日新聞社主催)
- 9月13日 福井県学校図書館研究大会合会
- 10月25日 第35回福井県学校図書館研究大会
(255名参加) (福井大会)
- 1月30日 第4回県学校図書館協議会役員会
- 2月6日 第5回県学校図書館協議会役員会
第2回県学校図書館協議会理事会
- 2月6日 「福井県の学校図書館」第47号発行
- 2月7日 全国学校図書館協議会総会
(福井県学校図書館協議会事務局 西尾 攻)

平成14年度研究集会および研修会(予定)

区分	開催地(会場)	期間
全国図書館大会	群馬県前橋市	2002年10月23日～25日
整理部門	秋田県秋田市	2002年9月19日～20日
奉仕部門	埼玉県さいたま市	2002年10月17日～18日
参考事務分科会	三重県津市	2002年10月10日～11日
児童図書館分科会	熊本県熊本市	2002年11月14日～15日
日本図書館協会地方講習会	福井県福井市	期日未定
東海北陸地区公共図書館司書等専門研修	愛知県名古屋市	期日未定
東海北陸地区公共図書館研究集会	石川県金沢市	期日未定

平成13年度県外研修参加者名簿